

地域包括ケアの推進に係る東海北陸  
管内6県担当者会議資料  
(三重県)

平成30年5月14日  
三重県長寿介護課

# 事項

1. 現状
2. 課題と対応
3. 実施体制

# 1. 現状

## (1) H30年度の主な事業(地域包括ケア関係)

- 地域包括ケア推進・支援事業 4, 534千円
  - ・地域ケア会議へのアドバイザー派遣、在宅医療・介護連携に推進に係る研修等
- 在宅医療体制整備推進事業 21, 778千円(一部新)
  - ・在宅医療介護連携コーディネーターの育成、アドバイザーの派遣等
- 認知症ケア医療介護連携事業 43, 541千円
  - ・認知症疾患医療センターの指定、市町の活動支援等
- 認知症地域生活サポート事業 8, 987千円
  - ・認知症サポーターの養成、認知症コールセンターの設置等
- 高齢者健康・生きがいづくり支援事業 16, 848千円
  - ・ねんりんピック選手団派遣、生活支援コーディネーター養成、地域シニアリーダー育成等
- 老人クラブ活動等社会活動促進事業費補助金 51, 778千円

# 1. 現状

## (2) 地域包括ケアの推進における課題

### ① 市町・県における課題と対応

#### (ア) 市町

- ・市町によって人員体制、予算、社会資源、意欲にばらつきがある。

#### (イ) 県

- ・人員及び予算は、十分とは言いがたい。
- ・職員のスキルアップも急務。

# 1. 現状

## (3) 取組の成果(県が工夫を凝らした取組)

### 在宅医療・介護連携推進事業

○市町と医師会が連携し、在宅医療・介護連携を推進できるよう支援

○在宅医療介護連携アドバイザーを派遣(H29年度新規)

H29年度派遣実績 6市町 10回 (講演会・勉強会・聞取)

# 在宅医療・介護連携の推進

## ●市町と医師会が連携し、在宅医療・介護連携を推進できるよう支援

### 在宅医療介護連携の課題

《在宅医療・介護連携推進事業》  
介護保険法の地域支援事業に位置づけられた、資源の把握、課題の抽出と対応策の検討、切れ目のない在宅医療提供体制、情報共有体制、相談支援体制など、平成30年4月にはすべての市町が実施する8つの取組

### 《在宅医療フレームワーク》

在宅医療体制の整備に際し概ね必要と考えられる構成要素を基にした一定の枠組み

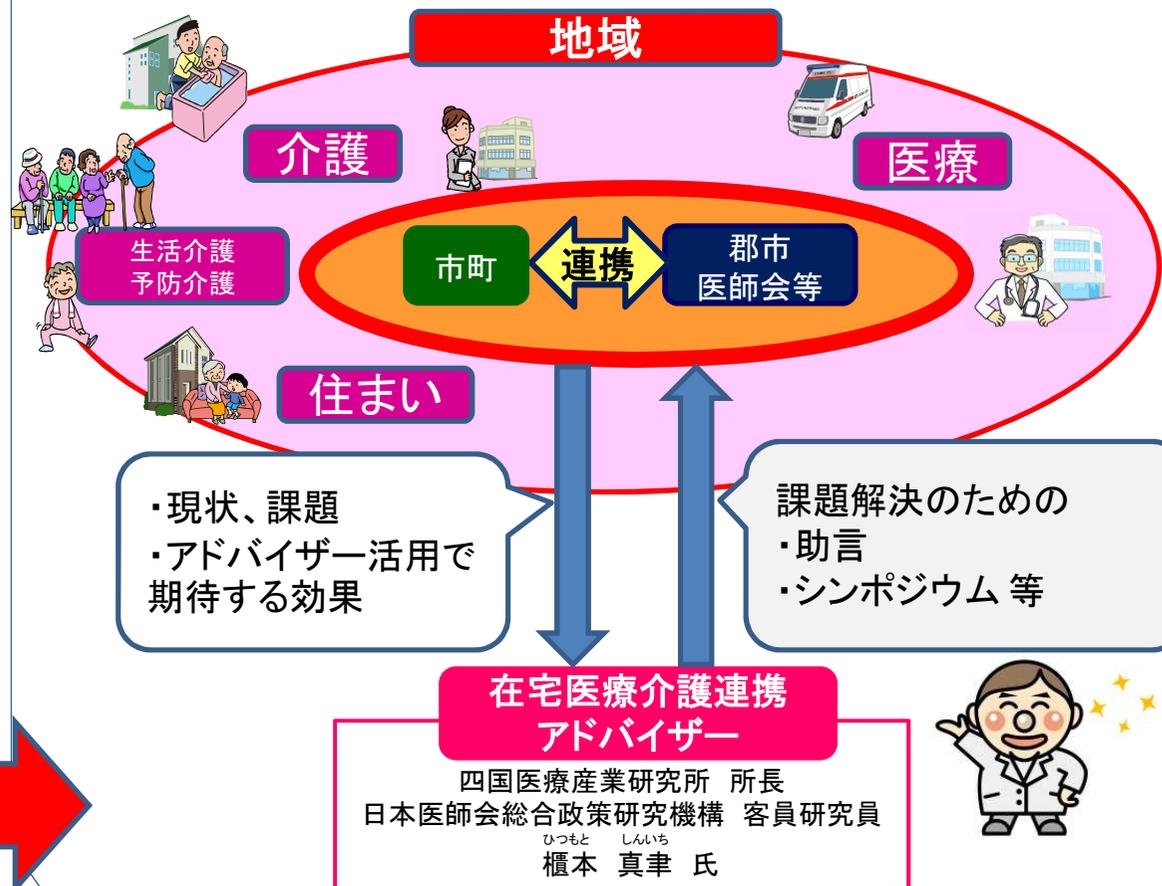
- 「在宅医療・介護連携推進のための地域別広域調整会議」(6~7地域で2回開催)
- 市町ヒアリング(全29市町に対して実施)

### 市町ヒアリング結果からの課題

- ①在宅医療のノウハウ不足
- ②医療資源等の不足
- ③関係機関の連携が不十分

### 在宅医療介護連携アドバイザーの活用 (平成29年度新規)

在宅医療介護連携アドバイザーを活用し、  
地域の実情に応じた在宅医療介護連携の推進を支援する。



# 在宅医療介護連携アドバイザーを活用した在宅医療介護連携の推進について

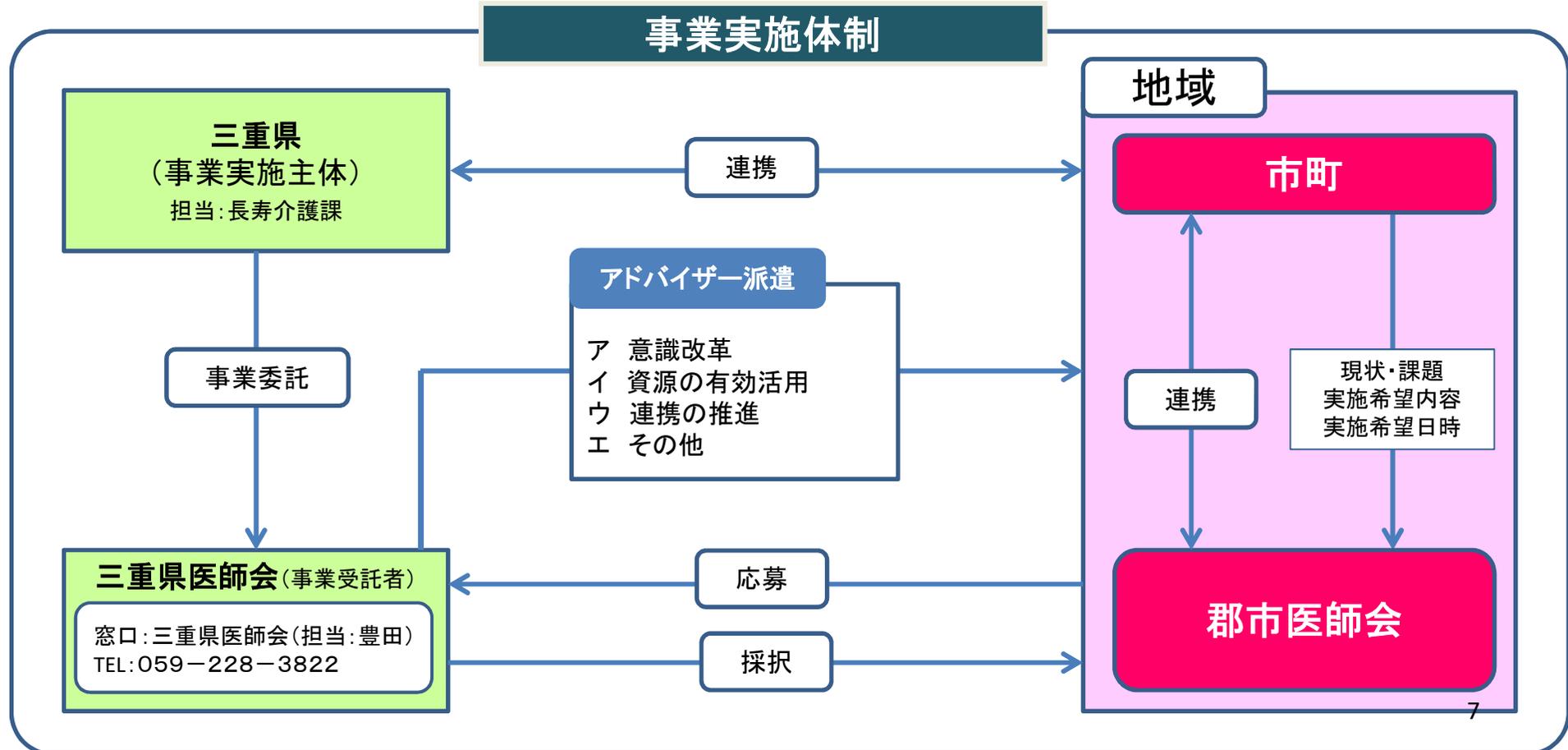
## 目的

住民が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、地域包括ケアシステムの中で医療・介護の関係者が連携して在宅医療体制の充実を図りながら、「病院完結型」から「地域完結型」への移行を促していくことが重要になってくる。

地域包括ケアシステムの構築は、市町が主体となって取り組むこととされており、また、在宅医療介護連携の推進についても、介護保険法に基づき平成30年までの体制整備を求められている。

すでに先進的な取り組みを進める地域もあるものの、その状況は様々であることから、在宅医療介護連携アドバイザー（以下「アドバイザー」という。）を活用し、地域における在宅医療介護連携の推進を支援する。

## 事業実施体制



## 2. 課題と対応

### 事業・施策別の課題と対応

#### 【①総合事業及び②生活支援体制整備事業】

(課題)

- ・地域における担い手の不足
- ・県の人員不足

(対応)

- ・地域における担い手の育成  
(地域シニアリーダー育成研修事業→生活支援コーディネーターと連携できる人材の育成)
- ・委託先(県社協)との連携

#### 【③医療・介護連携推進事業】

(課題)

- ・ノウハウ不足
- ・資源不足
- ・連携不十分

(対応)

- ・広域調整会議、研修会の開催等により、関係機関が集まる協議の場を設定→連携促進
- ・ヒアリングにより各市町の課題や資源を共有し、それに応じた先進ノウハウの提供・研修開催・アドバイザーによるスーパーバイズの提供

# 地域シニアリーダー育成研修

年度	市町数(団体数)	市町名
H26	1(4)	明和町
H27	4(29)	多気町、大紀町、度会町、御浜町
H28	3(22)	志摩市、東員町、紀北町
H29	3(23)	四日市市、志摩市、紀北町

※H29は1月末現在

## ●紀北町の事例

- \* 地域で既に活動している人の紹介  
(地域資源の再発見)
- \* 先進事例の共有
- \* 地域の今と未来を考えるワーク



- \* 独自で現地調査を実施
- \* 地域活動をバックアップするため、  
紀北町社会福祉協議会が「地域福祉活動計画」の策定に向けて検討

グループ単位での参加が条件。そのグループ(団体)が地域シニアリーダーとなって地域に活動を広げていく。

紀北町の研修の様子↓



## 2. 課題と対応

### 事業・施策別の課題と対応

#### 【④認知症施策】

(課題)

認知症の早期から切れ目のない支援提供体制の構築

(対応)

市町の地域包括支援センターを中心に以下3点と連携。

・医療現場：早期発見・早期診断専門医療機関（認知症サポート医、かかりつけ医、認知症疾患医療センター等）へのつなぎ

・地域・職域のサポート：地域における見守り・支援等（キャラバン・メイト、認知症サポーター等）

・介護現場：認知症介護サービスへのつなぎ。

また、認知症コールセンター、若年性認知症支援事業を県が委託して実施している。

#### 【⑤地域ケア会議】

(課題)

- ・市町の意識の向上
- ・市町の実施体制の支援

(対応)

・地域ケア会議アドバイザー派遣事業

H29年度派遣実績  
8市町 34回

# 3. 実施体制

## (1) 人員 三重県長寿介護課

### 【H30】

計26名(行政職22名(うち1名看護師資格有り)、作業療法士1名、  
嘱託員2名、業務補助職員1名)

◎課長1名

○地域包括ケア推進班 9名

○施設サービス班 8名

○居宅サービス班 8名

# 3. 実施体制

## (2) 関係機関との連携

委託事業、補助事業、各種会議への委員派遣等による連携を推進

- ・三重県医師会
- ・三重県看護協会
- ・三重県リハビリテーション協議会（県理学療法士会、県作業療法士会、県言語聴覚士会）
- ・三重県社会福祉協議会
- ・三重県老人クラブ連合会 等